様式3

学校番号 9

令和　6　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

福岡県立 小倉南 高等学校

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	鍛え、褒め、多様な学びの中で生徒の可能性を最大限に伸ばし、「自走力」を育成する学校 独自の体系的なキャリア教育「ネオ・サザンクロスプラン」等の実践を通して、本質を極められる確かな学力と自他を尊重する精神を持ち、自ら考え仲間とともに学びながら時代の変化に柔軟に適応できる、たくましい人材を育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に関する方針）	・何事にも意欲的・主体的に取り組み、自己実現を目指す生徒の育成 ・変化に柔軟に適応し、豊かな人生を自ら切り拓く力の育成 ・自己肯定感を高め、自他ともに価値ある存在として認めることのできる人権尊重の精神の涵養
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に関する方針）	・他者と協働した探究的な学びによる「思考力・判断力・表現力」の育成 ・基礎・基本の徹底により「知識・技能」を確実に習得させる指導 ・ICTや少人数制を利用したきめ細やかな個別最適な学びの提供
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに関する方針）	・希望進路の実現に向け、たゆみなく真摯に努力できる生徒 ・文武両道に励み、失敗を怖れず、何事にも果敢に挑戦する生徒 ・本校での学びをとおして、将来の夢を見つけたい生徒

学校運営計画（4月）

学校運営方針	歴史と伝統、南高PRIDEを継承し、凡事徹底を掲げ、個別最適化された学びの実現を目指し、社会において活躍できる生徒の育成を推進する。また、主体的に進路を選択する力、粘り強く取り組む力、社会の変化に柔軟に対応できる力を培い、信頼度の高い学校文化を構築する。		評価 （総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
学校行事については、感染症対策を徹底し、学校での学びを大切にした教育活動を実践することができた。本校の強みである「高みを目指し、自己実現を図る姿勢の育成」により、昨年同様に進路実績に結びつけることができた。 新学習指導要領および教育改革への円滑な対応を図るため、教育課程や教務内規の改定を行う等カリキュラム・マネジメントを推進した。また、1人1台端末が整備されたことでICT環境も整い、授業改善の機運も高まってきている。 今年度は校内研修を充実させることによりICT活用能力を高め、個別最適化された学びを目指すとともに、教科科目横断型授業等にも取り組んでいかなければならない。また、HPやSNS、PR紙の活用を積極的に行い、本校の教育活動を組織的に適宜発信していく必要がある。	凡事徹底を日々の教育活動の中で積み上げていくことにより全人的な成長を促し、互いの良さや可能性を認めあえる人権尊重の精神の寛容を図る。 様々な体験活動や他者と協働した探究的な学びの機会を設定し「思考力・判断力・表現力および学びに向かう力」を高める。 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学びに取り組む。 個別最適化された学びを提供するために、1人1台端末を有効に活用するとともに教職員のICT活用能力をさらに高める。 教師力の向上を図り「チーム南高」としての学校力を高めるとともに学校のブランド化を図り生徒・保護者の期待に応え地域に愛される学校を目指す。 教育活動全体を対象とした戦略的広報活動を推進し、生徒募集につなげる。	全教育活動を通じ個人が大切にされた環境を作り（生徒への丁寧な呼名・言葉遣い、校内の掲示物、清掃状況等）、自尊感情の育成と将来への展望が持てる人権教育を推進する。 安易な欠席遅刻を無くし、学習に向かう環境づくりを推進する。（出席率98％以上） 研修をとおしてクロームブックやICT等の活用能力を高め、個別最適化された学びを目指す。（研修年3回）	A
		新しい視点を取り入れた研究授業と教科科目横断型授業を行う。（各教科1回） 総合的な探究の時間等を活用し、大学や企業等と積極的に連携し探究的な学びを実践する。	
		担任の進路面談（年3回）による個に応じた進路指導と小論文を含む徹底した大学問題研究により生徒の進路実現を支援する。（国公立合格80名以上(九大1名を含む)、難関私大） 教育活動全体を通じた前向きな生徒指導により、自律的に考え行動できる生徒を育てるとともに部活動を活性化する。（加入率80％以上）	
		HPやSNS、PR紙の活用及び学校説明会などをとおして本校の教育活動を組織的に適宜発信していく。（タイムリーなHPの更新、インスタグラム等の積極的な活用） アンケートを活用して各学校行事の改善を行うとともに、卒業時のアンケートで学校満足度90％以上を目指す。	

自己評価								学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
学習指導	主体的学習態度の育成	面談等を通して生徒一人ひとりの状況を把握し、個に応じた適切な指導を行うことにより、安易な遅刻欠席の改善に努め、学習に向かう環境作りを行う。出席率　1年生:99.5%　2年生99.0%　3年生99.0%　を目指す。	・授業アンケート	B	B	B	・出席統計により各クラスごとの出席状況を把握することができるようになった。ライフレポートや放課後の面談等を通して生徒一人ひとりが抱える背景を理解し、個に応じた指導を行っていく必要がある。長期欠席の生徒も増加傾向にあり、遠隔授業や出欠の管理など、業務が複雑化しているため、全職員が対応できるようにならなければならない。 ・45分授業になったことで以前より放課後に面談や個別の指導を行うことができるようになったが、より良い活用方法について検討していく。	A	●授業時間を45分にすることで放課後に個に応じた手厚い指導が促されていること、また放課後の過ごし方が生徒の主体性に委ねられているようになったことは評価できる。次年度は、さらに有意義に活用されるように環境の整備や生徒の意識改革等、働きかけや工夫が必要である。 ●個別最適な学びと協働的な学びを推進するために職員研修を積み重ね授業改善に努められている。生徒1人1台タブレットの活用を推進して、さらなる指導力向上に努めてほしい。
		ライフレポートを有効活用することで、生徒の振り返り・学習活動につながる適切な指導を行い、生徒の自己管理能力を育成する。自宅学習時間（一日平均）1年：120分　2年：140分　3年：160分以上を目指す。		B					
		「図書館だより」や「新刊案内」の発行や朝読書週間などの取組、授業での図書館の活用により、本に親しむ態度を育成し、読書による思考力の伸長を図る。図書貸出冊数:7冊/人を目指す。		A					
	授業改善による教科指導力の向上及び、カリキュラム・マネジメントの推進	授業アンケートを年2回行い、年間指導計画で設定した目標や課題に沿った授業展開ができるように、積極的な授業改善を行う。		B	B		・今年度より授業アンケートを年2回実施（7月・2月）したが、より適切な回数や時期について検討する必要がある。生徒の学んできた過程が大きく変容していくなかでより良い授業に向けて全職員で授業改善を行っていく。 ・「個別最適な学び」、「協働的な学び」がより実践できるようになるために、研修部と連携し、Chromebookの活用事例の共有など、授業やクラス・学年での効果的な活用法についての研修を計画する必要がある。		
		生徒の「1人1台タブレット」を有効活用し、ICTを利用した「個別最適な学び」や、「協働的な学び」を推進する。		B					
		より良い授業の実施のために、観点別評価による学習評価を行い、授業改善につなげていく。また、評価方法の検証を行い、課題を発見することで、より良い評価方法へのブラッシュアップを図る。		B					
1　広報業務 2　庶務業務 3　PTA業務と職員福利厚生業務	広報活動の効果的な実施	中学生や保護者及び地域に本校の魅力を効果的に伝えるために、学校案内パンフレット・ポスター、チラシ等の広報物を作成し、中学校等に配布する。	・中学生進路相談事業事後アンケート ・中学生体験入学事後アンケート	A	A	A	・学校案内パンフレット及び定期広報誌（『南風』について、本校を志望する中学生及びその保護者に本校の教育の質を具体的に知っていただくために、生徒の活動を多方面からアピールするものを作成する。 ・各広報物の作成について、各部署に加え、部活動やPTA、同窓会の協力も仰ぎながら作業を実施する。 ・次年度の各行事等の準備も早めに取り掛かり、更なる内容の充実に努める。 ・PTA活動について、次年度も新理事の募集について、本校での活動内容を具体的に提示することで、募集に応じていただけるように努める。 ・各行事の計画策定や職員福利厚生などの課の実務について、各部署に対して早めの呼び掛けを行いながら連携に努め、より共通理解がされた状況を構築しながら実施する。	A	●広報誌「南風」は、新入生や保護者が南高について理解を深めるために非常に役立っている。様々な情報が掲載されており、部活動を検討する際の参考になっているため、今後も継続してほしい。 ●PTA活動については、挨拶運動や文化祭等の学校行事で学校との連携を深め、有意義な活動ができている。今後は、多くの保護者に参加してもらえるように活動内容を精選し、無理のない範囲で協力が得られる体制に改善が求められる。
		本校の魅力を効果的に伝えるために、各部課と連携して充実した中学校体験入学を企画・実施する。		A					
	校内行事の円滑な実施と運営	行事・儀式等の円滑な実施のため、各部課と企画・立案の調整に努める。		B	B				
		各行事等の細目の職員への周知徹底を図るため、2ヶ月分行事予定表を毎月中旬までに作成し配布する。		A					
	PTA活動の積極的な推進と職員福利厚生の充実	PTA活動を積極的に推進するために、PTA総会、総務会（年4回程度実施）、理事会（総務会後）、PTA諸行事の実施を的確に調整する。		A	A				
		親和会会計を適切に実施し、衛生的な職員室環境を定期的に維持する。		A					
生徒指導	基本的生活習慣を確立と社会規範・校則遵守の精神の涵養	凡事徹底を日々の学校生活や特別活動において実践し、自己指導能力の育成に努める。すべての学校活動において社会人として通用する教育活動をおこなう。（基本的生活習慣目標　出席率99.3%）	・いじめアンケート ・体育大会、南薫祭等の各学校行事におけるアンケート	B	B	B	・校則やルール等については、概ね生徒は理解し行動に移してくれた。「凡事」の「徹底」をどれだけさせることができたかは、まだ改善する余地がある。 ・校則改訂については、生徒の意見を十分に聴き取り、保護者の意見も鑑みながら検討することができた。生徒や保護者へ説明ができるものへと改訂していくことが今後も求められる。その一方で、自主性の意味をはき違えて捉える生徒が増えたのも事実である。生徒の意識と共に、指導する立場にある教員の意識も変容しなければならない。 ・「いじめアンケート」を定期的に実施し、気になる記述には早急に対応することができた。一方で、問題行動発生時において、若干対応が遅れることがあった。 ・学校行事については、昨年度の反省を活かして企画・運営をすることができた。しかし、実施要項等の提示が遅くなり、関係各所との連携に遅延が生じた。また、生徒主体で取り組ませることができたが、取り組ませる意義や意味を生徒が十分に理解しないまま進んでいることがあった。準備期間（放課後や休日等の活動）については、生徒の負担軽減及び教員の働き方改革の観点から改善する必要がある。 ・時代や社会の要請に応じて、これからは更に学校も変化していかなければならない状況にある。他校と常に情報交換をし、本校にとってより良い在り方を今後も検討していく必要がある。	A	●校則改定については、時代や社会の変化に応じて、毎年度、生徒や保護者の意向を汲み取り、検討・改善に努めていることは大いに評価できる。 ●学校行事については、生徒の主体性を伸ばす指導がなされており、リーダー及びリーダーを支える集団の育成ができているようだ。今後も学校行事において様々な課題を乗り越えさせることにより、成長させてほしい。 ●いじめアンケートについては、今後とも気になる記述には迅速に対応していただき、重大事態にならないようにしてほしい。
		「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止に対する全職員・生徒の意識の高揚を図る。また、問題が発生したときには速やかに対応にあたる。また、Google Formsを活用してアンケートを行い、統計分析を行う。		A					
		「時を守り、場を清め、礼を正す」を励行し、生活指導の徹底を図る。また、校則等のルールについては、生徒、保護者の意見を反映して常に見直しを行い、その上でルールを守るよう指導し、規範意識を育成する。		B					
	特別活動や部活動をとおした指導による、愛校心や帰属意識の向上	特別活動・部活動やボランティア活動等の多様な他者との関わり合いをとおして、各自の果たすべき役割を認識し、逞しい人間力を育成する。（部活動加入率80%以上　県大会出場　運動部20以上　文化部5以上　九州大会3以上　全国大会2以上		B	B				
		生徒が主体的に取り組めるよう、昨年度の反省や生徒のアンケート内容を学校行事に反映させる。そして生徒に主体で行っている意識を持たせることで、達成感を味わわせ、南高生としての帰属意識を高める。		B					
		友人と協力し互いの良さを発揮できる人権尊重の精神を育む。また、様々な学校での活動をとおして、社会に通用する生徒の創造力向上を図る。		A					

保健安全指導	ワンヘルスに基づく健康管理の重要性の周知 保健室利用者の把握と、関係職員との連携の徹底	「福岡県ワンヘルス推進基本条例」に基づき、ワンヘルスの考え方を職員が理解した上で、感染症に関する理解を深め、生徒全員がより良い学校生活を送り、自主的に行動できるよう健康管理を徹底させる。	・生徒に対する毎日の健康チェック ・修学旅行前事前アンケート	A	A	A	・保健委員会・美化委員会活動に関しては、年々活動が定着してきており、発展が期待できる。感染症対策が少し御座なりになってきているので、生徒自らが考えて行動できるように、仕掛けを考える。 ・生徒支援に関しては、生徒、保護者、担任のニーズに合わせて適切に行うことができた。来年度に向けても、SCや関係機関等との連携を図り、引き続き尽力していく。	A	●感染症予防対策については、生徒が保健だよりを作成したり、定期的に手洗い用せっけん液を補充したりするなどして、注意喚起が促されている。今後も委員会活動を活性化して生徒主体の取組を継続してほしい。 ●配慮を要する生徒が増えている状況の中で、SCや関係機関との連携を通して個に応じた支援に努められていることが分かる。 ●保護者に対するSCの相談案内は、家庭内において子供の対応に困っている親にとってはとても助かっている。今後もこの案内は継続してほしい。
		保健室利用状況を関係職員で情報共有する。保健委員会が毎月1回発行する保健だより等により、心身の健康に関する意識を高める。また生徒が「保健だより」を作成することで生徒の意識を高める。（保健だより定期的発行　年間10回以上）		A					
	校内施設の点検と、職員に対する安全管理の周知徹底 環境美化や環境衛生の意識の向上	教員と生徒に対して各区域における清掃マニュアルの初期指導を実施し、日々の清掃活動を徹底、掃除監督を徹底することにより、校内美化意識の向上を目指し、愛校心の向上を図る。		A	A				
		美化委員会・保健委員会の活動をとおして、環境衛生に関わり、美化・保健意識を向上させる。定例の美化委員会・保健委員会を実施し、活動を活性化する。（月１回の定例委員会）		B					
	生徒・保護者・担任・ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ(SC)や専門機関との連携を基本とした、教育相談活動の推進と生徒支援活動を充実	生徒支援にかかわる情報を、関係職員で共有する。必要に応じて、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ(SC)や専門機関等との連携を図る。また、気になる生徒については関係職員で会議を実施し、情報を共有する。（配慮を要する生徒の情報交換会年2回以上）		A	A				
		特別支援の必要な生徒に関して、保護者、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ(SC)、専門機関等との連携を推進し生徒支援を充実させる。個別の教育支援計画を作成し、支援の方向性を共通理解する。（診断生徒の支援計画作成率100%）		A					
進路指導 ・ネオサザンクロスプラン	・進路意識の確立 生徒・保護者・教員の共通認識による、適正な進路希望の早期確立	年に1回はオープンキャンパスに参加し、進路について自ら学び自ら考える生徒の育成を図る。	オープンキャンパス参加前後にアンケートを実施 外部講師による講座に関するアンケートを実施	B	A	A	・校外模試や3年生の夏期、秋期、冬期の補講授業、土曜講座については、実施日数や実施教科科目等について見直しが必要である。また、本年度から入試科目に追加された「情報」については、共通テストの結果や出願先を分析し、導入すべきかを検討した方がよいと考える。 ・より早い段階で受験計画を具体的に立てさせて、いつ、何を学ぶべきかはっきりさせた上で指導のタイミングや内容を見直す。総合型、学校推薦型の希望者が多く、志望理由書等早期からの対策が必要である。	A	●生徒の進路意識を高揚するために、1年次から様々な関係機関・大学、卒業生と連携して取組がなされていることは大変評価できる。今後もキャリア教育の充実・発展に努めてほしい。 ●総合型選抜や学校推薦型選抜の希望者が南高に限らず、全体的に増加傾向にある中で、3年間を見通した進路指導計画を見直す必要がある。
		生徒対象の進路講演会を年１回以上開き、自己実現を図る姿勢を育成する。		A					
		進路の手引きを活用した進路ホームルームを開く。卒業生の学びや進路実績、進路関係のスケジュールを把握することで、自ら情報収集をする生徒を育成する。		C					
		ネオ・サザンクロスプランを軸として、夏期・秋期・冬期に体験的なキャリア教育活動や集団学習会・補講授業を実施する。		A					
		大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を各学年適宜実施する。		A					
		（第３学年）保護者対象の進路説明会を実施し、生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。		A					
修学・進路支援	校内外での支援の連携	経済的・個別的な課題を抱えた生徒の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。生徒の修学困難な理由を学年と連携して早期に把握し、その課題解決のための手段を講じる。	1年生に向けての人権・同和教育アンケート	B	A	A	・課題を抱えた生徒の把握に努め、学年・生徒部・保健室と連携して課題解決に向けて意見交換した。欠課時数の超過を含む様々な要因で進路変更していく生徒を減らすため、保幼小中高の連絡会等外部機関との連携も継続していきたい。 ・奨学金の情報を適切に連絡することが出来た。給付金や支度金の申し込みについても、事務室と連携して適切に対応することが出来た。	A	●奨学金の案内については、申請方法が複雑になっているために、毎年説明会を開くなど、相談しやすい取組をなされていることは評価できる。
	外部機関との連携	就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。外部機関との連携を通じて適正な選考が行われるように就学・就労支援に取り組む。生徒に還元できる情報を収集する。		A					
	家庭状況の理解・把握 事務室と連携	日本学生支援機構など奨学金の情報を、効果的に活用できるように取り組む。支援金や給付金については事務室と連携して確実に取り組む。		A					
職員研修	教師力の向上を図るための校内研修の充実	関係部署との調整を行い、年間8回以上の校内研修の実施を目指す。特に若年教員研修を充実させ、活躍できる若年教員を育成する。	・授業アンケート	B	B	B	・学校のデジタル化に対応するための新たなスキルが身につく研修を実施し、校内の業務の円滑化を図る。 ・学務課とも連携し、授業改善の促進や教科横断的な学びの実現について検討し、具体的な計画を立てることが必要である。 ・将来の後継者を育成するために、有意義な実習となるよう工夫や検証をすることが必要である。 ・研究紀要については、本校の更なる発展のため、今後の教育活動に活かせる研究紀要を目指す。	A	●学校教育のデジタル化は着実に進んでいるようである。今後もますます進む情報化・デジタル化に対応できるように職員研修を通じてICT活用指導力を向上させてほしい。また、そのことにより、職員の超過勤務がより改善されることを期待する。
	個別最適化された学びを提供するための授業改善	授業参観週間・オープンスクール（公開授業）など授業改善のための行事を2回以上実施する。		C	B				
		新しい視点を取り入れた研究授業を計画し、年間5回以上の実施を目指す。		A					
	教育実習生の指導	関係部署との調整を図り、充実した教育実習を実施し、将来の後継者育成を目指す。		B	B				
	将来につなげるための研修紀要の作成	校内外の研修や研究活動の成果を年度末に研究紀要「紀要南薫」にまとめ、今後の教育活動に生かす。		B	B				

教育の情報化	ICT機器利用促進のための研修会やマニュアル作成	統合型校務支援システムへのスムーズな運用・電子黒板や生徒用タブレット端末の効果的な活用、その他教育の情報化の推進を目指し、研修会の実施やマニュアル作成を3件以上実施する。	・学習者用タブレット端末活用調査	A	A	A	・今年度、CMSシステムの更新に伴い、新しい学校ホームページを完成した。ホームページやインスタグラム等のSNSの更新を行い、本校の魅力を効果的に発信することを目指す必要がある。 ・職員へのICT研修をより充実させ、時間や空間の縛りに捉われず主体的に学ぶ生徒を育成する体制の構築を図る機会をつくる必要がある。 ・事務部と連携し、Wi-Fiが届かない部屋の改善や、古いICT機器の更新を推進する必要がある。	A	●学校が公式インスタグラムを開設したことで、保護者や関係者にも学校生活や部活動に関する情報を広く発信できるようになっている。地域の中学生に対しても良いアピールになると考えられるので今後のインスタグラムの活用に期待する。
	ICT環境の整備・改善	校内のネットワーク環境の効果的な活用を目指し、不具合の改善や、古い機器の更新など校内で実施できる整備や改善を年間10件以上実施する。		A					
	中学生・保護者・地域・卒業生への情報発信	学校ホームページを月6回以上の頻度で更新し、情報発信を行う。インスタグラムへの投稿を月6回以上行い、教育活動の発信を行う。		A					
第1学年	授業規律の確立と基礎学力の定着	黙想の励行、チャイムからチャイムまでの授業を実施することで授業規律を確立していく。また、出席率を99.5%以上を目標とする。	・学校生活アンケート、ライフレポート、進路希望調査等	A	A	B	・年々入学してくる生徒の気質も変化しているのか、今年度は、例年に比べると挨拶、言葉遣いや課題の提出等の学校生活における基本的な事項の定着に向けた指導に時間を要したが、今後も継続的な指導が必要である。 ・文理選択はしたものの、その後の進路についてはぼんやりとしたものしかイメージできていないため、次年度はそのイメージを固めさせ選択する段階に進んでいけるように指導していきたい。 ・数値目標の達成には、全体的な底上げが必要であり、きめ細かい粘り強い指導を継続していかなければならない。 ・学校生活のあらゆる部分において、自分のことだけでなく周囲のことを考えた行動がとれるよう指導していかなければならない。 ・次年度は創立120周年の年でもあり、学校の中核を担う学年として、細部にこだわって指導を展開していかなければならない。	A	●外部の関係機関と連携して、出前授業などの機会を多く設けている。各分野の専門家から話を聞くことができるため、社会に対する幅広い視野や理解・経験が深まる教育を実施していることは大変評価できる。
		生徒の実態に応じた「わかる授業」、主体的・対話的な授業実践をするとともに朝テスト等を活用して個々の基礎学力の定着と向上を図る。		B					
	基本的生活習慣の定着	時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導等を通して規範意識を身につけさせる。家庭学習時間は、1日平均120分以上を目標とする。		B	B				
		3年間を見据えた指導を展開していく。特に学年当初の初期指導をとおして集団としての社会性を養う。		B					
	将来を見据えた進路選択	キャリア教育課と連携を図り、ウインタースクール等を通してより高みを目指した進路希望を持たせられるよう指導する。また、1月進研模試総合3教科のGTZのA3 45名以上、B1 90名以上を目標にする。		C	B				
		教育課程説明会や進路講演会、学年通信等を活用して生徒・保護者に適切な進路選択のための情報提供を行う。		A					
	生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	教育活動全般をとおして人権意識の高揚に努め、適切な人間関係の構築を図る。		A	A				
第2学年	習熟度別クラス編成による学力等の育成	自ら学習する意欲を高めることで、家庭学習時間の確保に努めさせる。自宅学習時間（1日平均140分）	学校生活ｱﾝｹｰﾄ、ﾗｲﾌﾚﾎﾟｰﾄ、進路希望調査等	B	B	A	・学習成績が二極化しているため、成績層に応じて課題の量と質を工夫し、個別最適化の学習指導が必要である。 ・学校行事を重ねることでリーダーが成長し、フォロワーも増えている。しかし、生徒はまだ伸びしろがある。最上級生として下級生を牽引していくには、リーダーの更なる成長を促し、フォロワーの育成を継続して行い、集団としての力を増強する必要がある。 ・早期に希望進路を確定させて、その進路目標に応じた努力を始める必要がある。個人面談を積極的に行う。 ・自ら考えて行動できるように指導する必要がある。	A	●修学旅行などの学校行事等を通して、リーダーの育成及びそれを支える集団作りに努められていることが分かる。次年度は創立120周年の最高学年としてリーダーシップが発揮できる生徒の育成に努めてほしい。 ●進路指導については、個々の生徒の進路実現ができるように早期に進路目標を立てさせ、個人面談等を定期的に実施し、手厚い指導を期待する。
		習熟度別授業により生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上を図る。1月進研模試において、総合3教科GTZ B175人以上、A3 35人以上を目指す。		C					
	学校の中核としての人材の育成	学年としてリーダーシップを発揮できるようフォロワーの指導を強化する。		B	A				
		学年集会で3年次に活躍できるリーダーを育成する。		A					
	具体的進路目標の設定	進路部と連携し、適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。		A	A				
		各学期に進路面談を行い、適切な進路選択と進路目標の早期設定を促す。		B					
		模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。		A					
	生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	学校生活全般をとおして、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚に努める。		A	A				

第3学年	進路別クラス編成による学力の伸長	希望進路に応じた授業展開を工夫していくとともに、適切に課題を課していくことで、1日平均160分以上の学習時間を確保させる。	学校生活ｱﾝｹｰﾄ、ﾗｲﾌﾚﾎﾟｰﾄ、進路希望調査等	A	A	A	・授業や小テストなどはもちろん、クラス連絡確認、学校行事指導、アンケート集約などICTを幅広く活用することで効果的な教育活動ができた。今後もさらに活用の工夫をしていく。 ・学校行事では、学年の状況から課題を設定し、次の行事につなげていく指導を重ねてきた。次年度以降は、従来の指導に捉われず、社会の状況、生徒の変化に対応すべく指導計画を立てる必要がある。 ・これまで以上に年内入試を受験する生徒が多かった。今後もこの状況は続くと考えられるので1年次から適切な情報提供を行うとともに、家庭との連携も密にとっていく。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できる力をつけることを意識して思考、探究させる場面を教育活動に取り入れていく。 ・3年での指導は、これまでの指導の積み重ねの上でしかできないため、3年間の成長を見越して1年次の初期指導を丁寧に行う。	A	●年内入試（総合型選抜、学校推薦型選抜）の希望者が増えているのは、学校が早期から継続的に進路指導を実施してきた成果だと考えます。今後は、それに十分対応できる思考力・判断力・表現力等の育成が図られるように更なる工夫をお願いしたい。
		授業や課題配信等にICTを活用し、効率的に学力の定着を図り、生徒が自らの限界突破に挑戦できるような環境づくりを進める。		A					
	自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成	学校行事をとおしてリーダーとフォロワーの役割を理解させ、学年として学校全体を牽引できるリーダーシップを発揮できるよう指導する。		A	A				
		「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての誇りをもたせる。		B					
	進路目標の実現	進路説明会や学年通信等で保護者にも適切な進路情報を提供し、学校・生徒・保護者が一体となった指導で国公立大学進学率40%以上をめざす。		B	A				
		年3回以上の個別面談の実施で進路意識の高揚を図る。学校行事や小論文指導等で総合型選抜や学校推薦型選抜に対応できる力を育成する。		A					
	生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	卒業後も置かれた状況の中で自ら考え行動できる人材となれるよう、教育活動全般をとおした指導を継続する。		A	A				
		差別やいじめを許さない環境を整え、生徒の人権意識高揚に努める。特に課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。		A					
事務部	1 適正な事務処理	職員間の相互チェックを徹底し、適正な事務処理に努める。監査等での指摘ゼロ		A	A	A	条例・規則等に基づいて適正な事務処理を行い、監査等の指摘はなかった。次年度は大量の業務を計画的・効率的に誤りがないように実施する。説得力のある予算要求資料により、長年の懸案だったグラウンド照明の改修及び防球ネットの設置予算を確保した。	A	●学校経費やPTA経費について、予算案・収支報告が公表され、適正な業務が行われている。
	2 予算の有効活用	本校の学校運営方針に沿った、効果的・効率的な予算執行		A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・45分授業に変更したことによる放課後の時間の有効活用については、生徒の主体的な学習が促され、教師による個人面談・個別指導がゆとりをもって実施できるよう、環境整備や時間設定等を工夫する。
例）自習室の開放、1日の振り返り時間の設定、各教科質問教室の設定、スタディアプリの効果的活用、外部機関とのアウトソーシング等。

・校則の改定については、社会や時代の変化、近隣の学校の状況、生徒・保護者の意見等を踏まえて、引き続き見直しを図る。

・いじめアンケートについては、これまで以上に迅速に対応できるように、アンケートの回収方法の見直し・工夫を図る。

・3年間を見通した進路指導体制（補講・土曜講座・校外模試等）を見直し、総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できる力が生徒に身に付けられるようにする。

・教員の教科指導力向上・授業改善を促すため、リアテンダントやICT活用指導力を高める職員研修を充実させる。

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	